

UCS 本部のグローバルに局所 サービス プロファイルを移行するコンフィギュレーション ガイド

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[移行のためのステップ](#)

[ステップ 1. 下記に強調表示されるようにローカル SP のプール ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレート](#)
[を文書化して下さい。](#)

[ステップ 2. UCS 本部のすべての ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレートおよび GLOBAL-SP を](#)
[作り直して下さい。](#)

[ステップ 3. UCS 本部とのレジスタ UCSM。](#)

[ステップ 4. グローバルプロファイルへの移行する ローカルプロファイル。](#)

[ステップ 5. 新しいグローバルプロファイルを確認して下さい。](#)

[ステップ 6. 指定されたサーバに GLOBAL-SP を関連付けて下さい。](#)

[ステップ 7. 割り当てられる新しいグローバル SP の後の SAN LUN からのブート サーバ](#)

[関連情報](#)

概要

ドメインが本部から偶然登録を解除した場合この資料にグローバルに局所 サービス プロファイルを移行する方法をまたは記述されています

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Unified Computing System
- UCS 本部
- グローバルプロファイルにローカルを移行するプロシージャ

プロシージャの下で、最も挑戦的な UseCase を、起動しますリモート記憶域ブート LUNs の SAN から仮定して下さい、各サービス プロファイル内の開始プログラム (WWPN) を目標とするために既に区分されている。 ID は移行の間に変わらない必要があります。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Unified Computing System マネージャ (UCSM)
- ファブリック相互接続 (FI)
- ESXi VM の UCS 中央実行

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

移行のためのステップ

1. ローカル SP のプール ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレートを文書化して下さい。
2. UCS 本部のすべての ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレートおよびグローバル SP を作り直して下さい。
3. UCS 本部との UCSM を登録して下さい。
4. グローバルプロファイルにローカルプロファイルを移行して下さい。
5. ID が新しい GLOBAL-SP の仕様によって区分されるサーバのため正しい物であることを確認して下さい。
6. 指定されたサーバに GLOBAL-SP を関連付けて下さい。
7. SAN LUN からのブートサーバ。

ステップ 1. 下記に強調表示されるようにローカル SP のプール ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレートを文書化して下さい。

```
UCS-FI # scope org /
UCS-FI /org # show service-profile status
Service Profile Name Server Assignment Association Power State Op State
-----
SP01                1/3      Assigned Associated      On           Ok

UCS-FI /org # scope service-profile SP01

UCS-FI /org/service-profile # show detail
Service Profile:
Service Profile Name: SP01
Boot Policy: LocalDisk
BIOS Policy: ESX_BIOS
Host f/w Policy: global-default
Local Disk Policy: LocalDisk
Maintenance Policy: UserAck
Power Policy: PowerCap
Stats Policy: TemThreshold
Scrub Policy: global-default
UCS-FI /org/service-profile # show identity
Service Profile Name: SP01
UUID Suffix Pool: P_1
Dynamic UUID: c9fe0fd0-d051-11e3-00ff-000000000101
VNIC FC Node:
```

```

WWNN Pool: P_N_1
    Dynamic WWNN: 20:FF:00:25:B5:00:01:01
UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity
vNIC:
Name          Type    Fabric ID Dynamic MAC Addr
-----
ESX_Dat_A1   Ether   A          00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2   Ether   A          00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3   Ether   A          00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4   Ether   A          00:25:B5:0A:04:04
vHBA:
Name          Type    Fabric ID Dynamic WWPN
-----
ESX_FCDat_A1  Fc      A          20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2  Fc      A          20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1  Fc      B          20:FF:00:25:B5:0B:04:01

UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail
vNIC:
Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold

UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail
vHBA:
Adapter Policy: global-VMWare
Stats Policy: G-TemThreshold

```

ステップ 2. UCS 本部のすべての ID/ポリシー/VLAN/VSAN/テンプレートおよび GLOBAL-SP を作り直して下さい。

- グローバルプールを、ポリシー、VLAN、VSAN、vNIC テンプレート、vHBA テンプレート、LAN 作成して下さい
- 接続ポリシー、SAN 接続ポリシー、グローバル サービス プロファイル テンプレートおよびグローバル サービス プロファイル。
- UCS Manager でローカルで定義された VSAN と同じ ID があるグローバルな VSAN を作成した場合、グローバルな名前がユニークで、VSAN 名前の前の「G-」を考慮し、また新しく作成されたグローバルな VSAN の FCoE VLAN ID が対応したローカル VSAN で設定される FCoE VLAN ID を完全に一致することを確認することを確かめて下さい。VSAN ID が同じであり、FCoE ID が異なっていれば場合、エラーはグローバル サービス プロファイル アソシエーションに上がります。
- グローバルな SP の作成はそれぞれグローバルな ID プールから新しい UUID、MAC、WWNN および WWPNs を割り当てます。
- 新しくグローバルな テンプレートにこれらの新しいポリシーを適用して下さい。
- テンプレートからのグローバル サービス プロファイル SP01_GP を展開して下さい
- 同じ ID を保つために新しいグローバルプロファイル SP01_GP に WWNN/WWPN/MAC を設定して下さい

注: グローバルな SP の作成はそれぞれグローバルな ID プールから新しい UUID、MAC、WWNN および WWPNs を割り当てます。

ID によって CLI を割り当てる方法へのコンフィギュレーション ガイドを約参照して下さい

```

UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity
vNIC:
Name          Type    Fabric ID Dynamic MAC Addr

```

```

-----
ESX_Dat_A1 Ether A 00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2 Ether A 00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3 Ether A 00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4 Ether A 00:25:B5:0A:04:04

```

vHBA:

```

Name      Type      Fabric ID Dynamic WWPN
-----

```

```

ESX_FCDat_A1 Fc      A      20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2 Fc      A      20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1 Fc      B      20:FF:00:25:B5:0B:04:01

```

```

UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail

```

vNIC:

```

Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold

```

```

UCS-FI /org/service-profile # show vhma ESX_SB_A1 detail

```

vHBA:

```

Adapter Policy: global-VMWare
Stats Policy: G-TemThreshold

```

オリジナル (正しく区分された) WWPNs および他の ID を交換するか、または割り当ての
簡単な UCS 中央 PowerTool スクリプトを活用して下さい。これらの ID は作成されたグロー
バルプールの一部であり、これらの ID がきちんと割り当てられれば ID 宇宙は「使用中の」ステ
ータスを示します。

これは UCS 中央 PowerTools スクリプトのちょうど例で、Cisco の公式に サポート製品では
ないです。自己の責任において使用し、ラボで本番で使用する前に最初にテストして下さい。
グローバル SP セットアップ、Orgs、ID、ポリシー、先祖などに従ってスクリプトを編集して下
さい

詳細についてはガイドを参照して下さい

```

UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity

```

vNIC:

```

Name      Type      Fabric ID Dynamic MAC Addr
-----

```

```

ESX_Dat_A1 Ether A 00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2 Ether A 00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3 Ether A 00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4 Ether A 00:25:B5:0A:04:04

```

vHBA:

```

Name      Type      Fabric ID Dynamic WWPN
-----

```

```

ESX_FCDat_A1 Fc      A      20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2 Fc      A      20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1 Fc      B      20:FF:00:25:B5:0B:04:01

```

```

UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail

```

vNIC:

```

Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold

```

```

UCS-FI /org/service-profile # show vhma ESX_SB_A1 detail

```

vHBA:

```

Adapter Policy: global-VMWare
Stats Policy: G-TemThreshold

```

```

UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity

```

vNIC:

Name	Type	Fabric ID	Dynamic MAC Addr
ESX_Dat_A1	Ether	A	00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2	Ether	A	00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3	Ether	A	00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4	Ether	A	00:25:B5:0A:04:04

vHBA:

Name	Type	Fabric ID	Dynamic WWPN
ESX_FCDat_A1	Fc	A	20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2	Fc	A	20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1	Fc	B	20:FF:00:25:B5:0B:04:01

```
UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail
vNIC:
```

```
Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold
```

```
UCS-FI /org/service-profile # show vhba ESX_SB_A1 detail
```

vHBA:

```
Adapter Policy: global-VMWare
```

```
Stats Policy: G-TemThreshold
```

```
UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity
```

vNIC:

Name	Type	Fabric ID	Dynamic MAC Addr
ESX_Dat_A1	Ether	A	00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2	Ether	A	00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3	Ether	A	00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4	Ether	A	00:25:B5:0A:04:04

vHBA:

Name	Type	Fabric ID	Dynamic WWPN
ESX_FCDat_A1	Fc	A	20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2	Fc	A	20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1	Fc	B	20:FF:00:25:B5:0B:04:01

```
UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail
vNIC:
```

```
Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold
```

```
UCS-FI /org/service-profile # show vhba ESX_SB_A1 detail
```

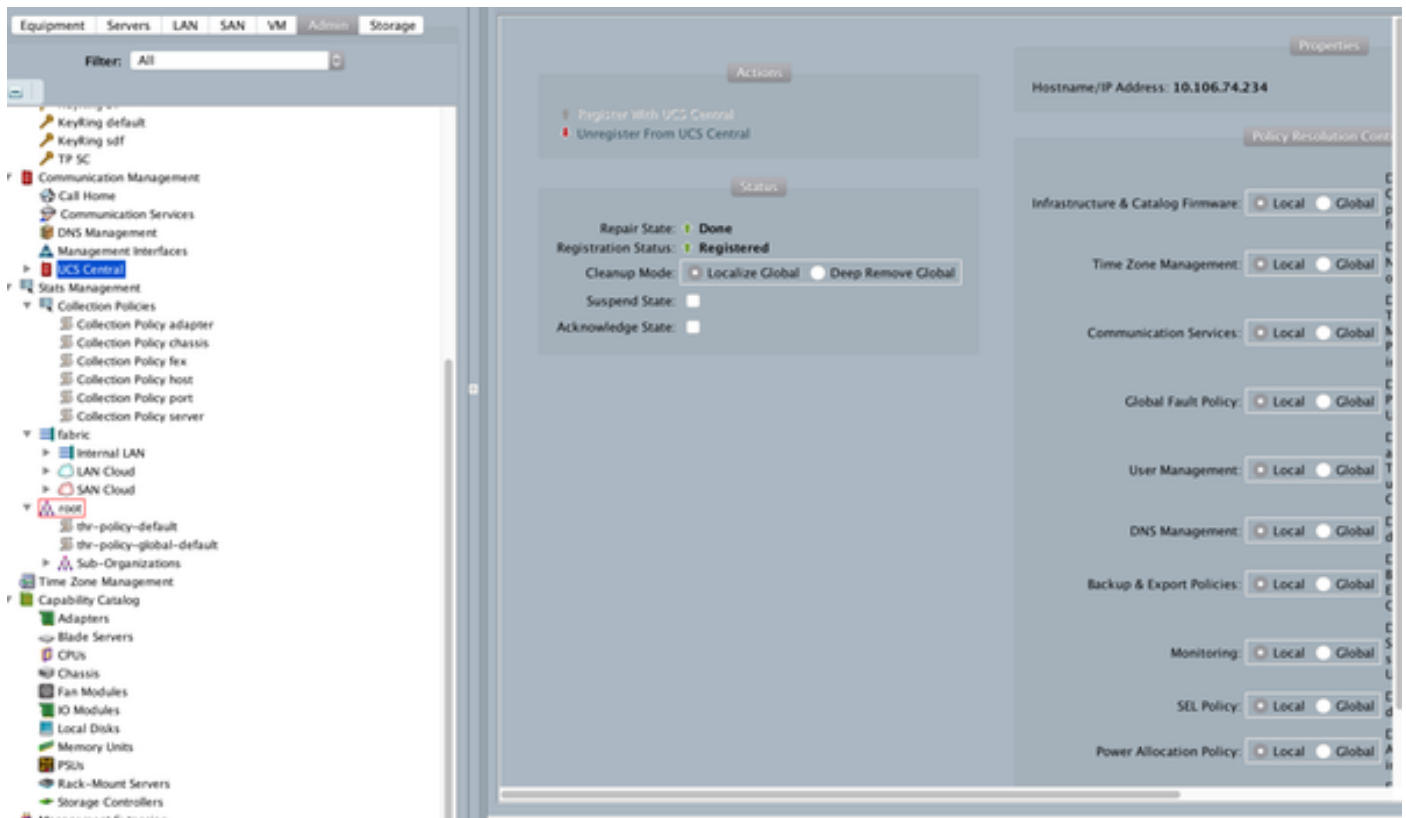
vHBA:

```
Adapter Policy: global-VMWare
```

```
Stats Policy: G-TemThreshold
```

各 ID が手動で割り当てることができるように繰り返して下さい

ステップ 3. UCS 本部とのレジスタ UCSM。



ステップ 4.グローバルプロファイルへの移行する ローカルプロファイル。

- 段階的にローカル SP のサーバをシャットダウンして下さい
- ローカル SP を引き離して下さい
- ローカル SP を削除して下さい ((未使用ステータスのプールに再び復元によって割り当てられる ID)

UCSM のサービス プロファイルを管理する方法のさらに詳しい詳細についてはコンフィギュレーション ガイドを参照して下さい

ステップ 5.新しいグローバルプロファイルを確認して下さい。

```
UCS-FI /org/service-profile # show vnic identity
vNIC:
Name          Type      Fabric ID Dynamic MAC Addr
-----
ESX_Dat_A1   Ether    A          00:25:B5:0A:04:01
ESX_Dat_A2   Ether    A          00:25:B5:0A:04:02
ESX_Dat_A3   Ether    A          00:25:B5:0A:04:03
ESX_Dat_A4   Ether    A          00:25:B5:0A:04:04
vHBA:
Name          Type      Fabric ID Dynamic WWPN
-----
ESX_FCDat_A1  Fc        A          20:FF:00:25:B5:0A:04:01
ESX_FCDat_A2  Fc        A          20:FF:00:25:B5:0A:04:02
ESX_FCDat_B1  Fc        B          20:FF:00:25:B5:0B:04:01

UCS-FI /org/service-profile # show vnic ESX_Vcon detail
vNIC:
Adapter Policy: global-VMWare
QoS Policy: ESX_QoS
Network Control Policy: CDP_EN
Stats Policy: TemThreshold
```

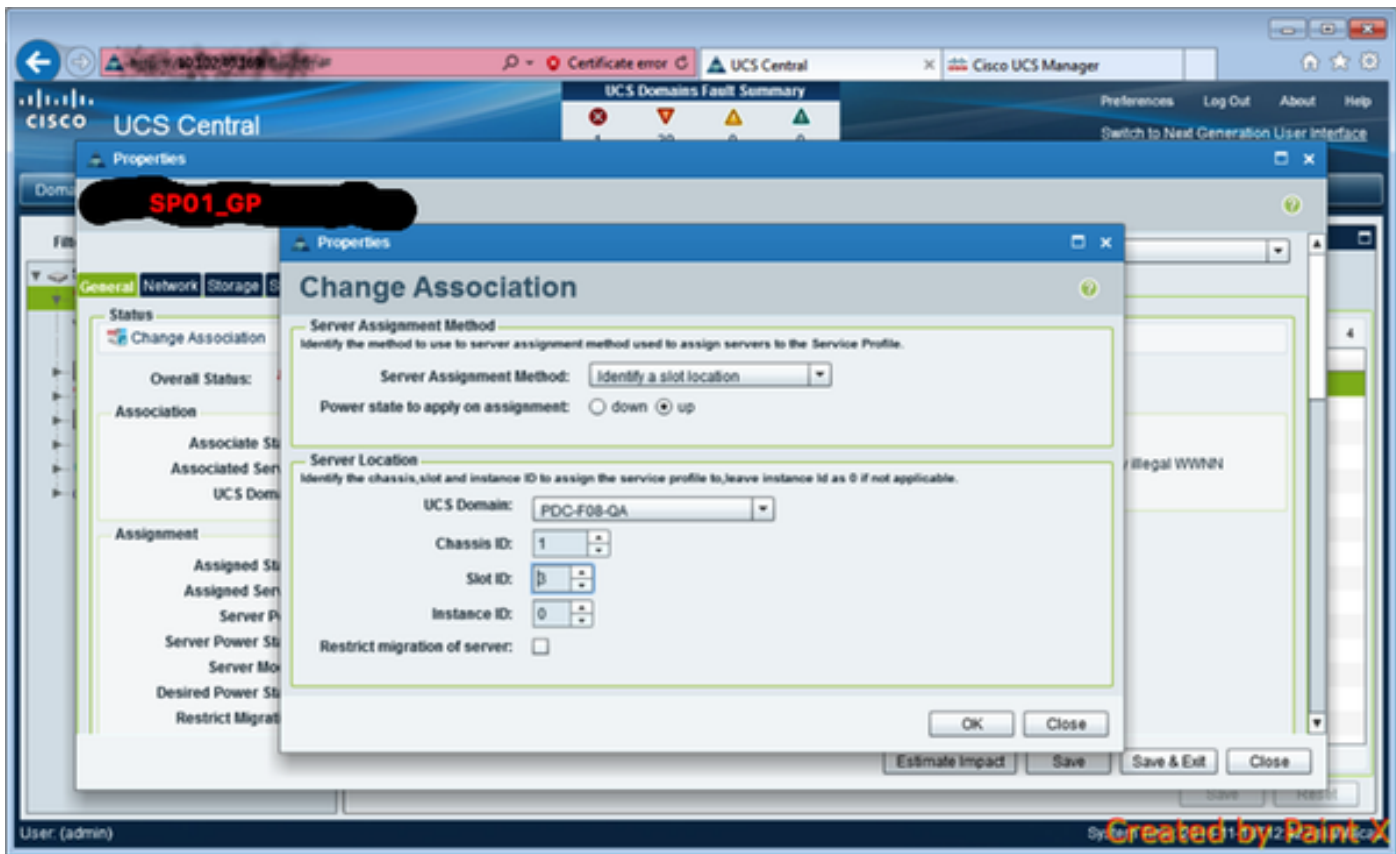
```
UCS-FI /org/service-profile # show vhma ESX_SB_A1 detail
vHBA:
```

Adapter Policy: global-VMWare

Stats Policy: G-TemThreshold

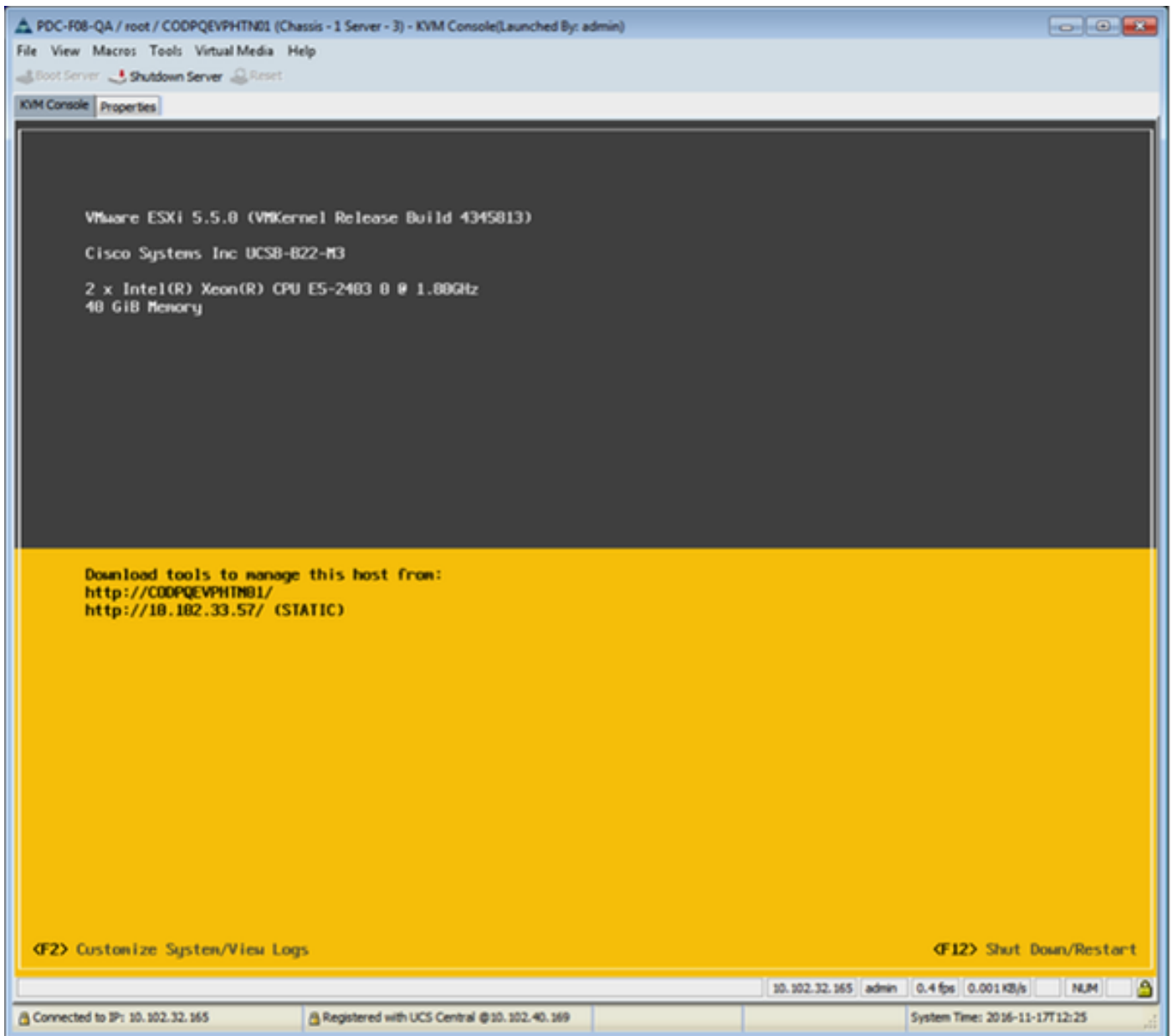
ステップ 6.指定されたサーバに GLOBAL-SP を関連付けて下さい。

コンフィギュレーションガイドを本部からの SP を関連付ける方法を参照して下さい



ステップ 7.割り当てられる新しいグローバル SP の後の SAN LUN からのブートサーバ

サーバが KVM コンソールによって SAN から起動できるかどうか確認して下さい



関連情報

- UCSM コンフィギュレーション ガイド
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-central-software/products-installation-and-configuration-guides-list.html>
- 中央最良の方法
<https://communities.cisco.com/servlet/JiveServlet/downloadBody/66619-102-3-120435/UCS%20Central%20Operations%20and%20Best%20Practice%20Guide.pdf>
- 中央コンフィギュレーション ガイド
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-manager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>
- PowerTools スイート
<https://communities.cisco.com/docs/DOC-37154>